

第3回 市長と語ろう！ふれあいトーク（観光）会議記録

- 1 日 時 平成 21 年 9 月 28 日（木）午後 4 時から 5 時
- 2 場 所 瑞龍寺大茶道
- 3 出席者 ・ たかおか観光戦略ネットワークの委員 14 名
・ 高岡市
市長、産業振興部長、商業観光課長、観光戦略室長、広報統計課長
- 4 会議次第
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 「たかおか観光戦略ネットワーク」の活動紹介
 - (3) 意見交換

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

市長挨拶

- ・ 観光には、そこにいる人が、その土地の宝に気づいてみんなに見せてあげたいと思う事が大切である。ビジネスとして成り立つために足りないもの、ファクターは何か、を求める必要がある。
- ・ そのうえで、「たかおか観光戦略ネットワーク」は、いろんな分野の人が揃っている。特に、数年先には新幹線が開業し、飛越能 86 万人の人口が駅を利用し、利便性が高まるはずである。良い循環になればよいと考えている。
- ・ 高岡から各エリアに散っていくプログラム作りが必要である。庄川流域や文化的に近いところなど、共通の宝をたくさんみつけ、PR する必要がある。例えば、先日は曳山サミットがあったが、曳山文化もひとつの共通の宝である。こういった共通のネットワークを組むというのも面白そうである。それらが観光として成り立つか、ビジネスとして成り立つか、行ってみたくなるルート、ストーリー作りが必要である。
- ・ また、ツアーの価値があるような環境を整備し、新幹線の開業へ繋げられることが大切である。今ある宝を見つけ、それらを組立て、潜在化している観光の種を作り上げていきたい。

活動紹介

- ・ 「磨く、つなぐ、売り込む」をテーマに観光戦略事業を実施している。
 - ・ 磨く：外国語看板の整備、古城公園マップの作成、寺社めぐりマップの作成
 - ・ つなぐ：レンタサイクルの体制づくり、伏木地区共通入場券の発行、ワイン列車の実施
 - ・ 売り込む：ＩＣ時代に対応したナビプロジェクトを平成 19 年度立ち上げてＱＲコ

ード整備、観光案内人事業の実施

- 観光事業は地域活性化に非常に重要であると考えている。また、サービス産業、観光事業は、地域経済に貢献できると重要な存在であるとする。その中で、「たかおか観光戦略ネットワーク」は、そういったあらゆる分野、あらゆる産業の者が集まり、新幹線開業などを見据え、ボランティアで活動し、意見交換を行っている。
- 駅員、ボランティア、宿泊、物産、など集まって支えているのが観光である。観光は末が広い。いろんな人が集まって、それぞれがそれぞれの分野でサービスを提供し、それらが集まって高岡の観光のサービス商品が出来上がる。良い商品づくりのためには、この戦略ネットワークのように情報交換は非常に大切であると考えている。

意見交換

出席者

- これからは、広域観光が重要であるとする。北欧ルート輸出は増える。伏木外港は、太平洋からの輸出が $1/3 \rightarrow 1/2$ になる。名古屋から富山への輸送が増えるはず。名古屋～富山～シベリア～ヨーロッパのルートは増加する。メリットは高岡。伏木港はしっかり整備しなければならない。
- また、これからは高岡が栄えていく時期。その中で、ビジネスセンターを設けるべきである。北陸新幹線が開業すれば、ビジネス客が増える。外国人が増えるなら、コミュニケーションがとれるおもてなしも必要である。
- 物流の拠点として、高岡を見直す機会である。また、統計では、レジャーよりもビジネス客のほうが、観光地での支払い金額が大きいという結果もでている。とりわけ、コンベンションについては、通常の6倍の支払金額だそうである。

出席者

- スポーツ団体含めたコンベンションの誘致が必要である。補助金制度のPRをもっとすべきである。また、それを全面的にサポートできる窓口が必要である。

出席者

- 北陸新幹線が開業すれば、3時間で東京から高岡へ来ることができ、ほとんど日帰りになる。入込に対して、何が必要になるのか、近くに有効活用できるものが何かあるか検証が必要である。特に、駅周辺で高岡らしい食事ができる場所が必要である。近くには、氷見も新湊も山も海もある。金沢の近江町のようにブランド力で各地から取り寄せても良いのでは。
- 山町筋、大野屋などホテルとタイアップして高岡らしいものを食べていただけるような仕掛けづくりが大切だと考える。末広町や飲食店で高岡らしいものが食べられるお店があれば良い。
- また、駅の近場では、たしかに電車の待ち時間が過ごせられる場所が少ない。

- コンベンションは一種の総合ビジネスであり、それをつなぐ窓口は不可欠である。JRや旅館などへ分かりやすい情報提供を行い、コンベンションの受け入れを充実させる必要がある。宿泊、会議室、昼食場所などの情報提供が大切である。また、来年度はスポレク大会が2,000～3,000人規模で開催される。レクリエーションは、客単価が高いようであり、是非、期待したい。

出席者

- 伏木港における環日本海のアクセスについては、伏木港からシベリア鉄道へのルートがあり、東海とのパイプを組み立てれば、これから十分チャンスがある拠点ではないかと考えている。物流拠点としての整備を進め、港湾物流を1つの目標とし、日本海ポートセールスや国、県と協力して頑張っていきたい。

出席者

- ボランティアの平均年齢が年々上がっており、ボランティアの人材育成は不可欠であると考えている。金沢市では、市や観光協会が一括して育成を行っている。是非高岡でもお願いしたい。

出席者

- 観光の成功例を1つつくりたい。先日の開町まつりで御車山と伏木曳山が同日にできたように、2～3年の整備で、やれば実現できるものもある。全国を旅行している人は、イベントカレンダーなどを見て、裏の裏の祭りを求めている。うまく活用すれば、人が集まる。また、利長くんの家持くんをどう活かすのかも重要である。例えば、A旅館とBバスが連携して、観光ツアーを組み、原価20,000円である期間実施し、経済効果を見る、そうすれば観光の物差しが見えてくる。物差しが市民に浸透すればより良い。また、コンベンションは、だいたいエージェントがついている。大体、観光としてのエクスカージョンをつけている。古城公園でお茶を一服いただけたのかの企画をして、「せっかくなら、高岡」と思われるような逆の発想が必要である。

出席者

- 様々な情報が溢れている世間で、全国に名の知られていない地域ならではの情報提供があるはず。どこかでひとまとめにし、発信できることが重要であると考えている。

市長

- 団体のパッケージなのか個人客向けなのか、どちらでどうターゲットを絞るのか、エージェントなのかインターネットなのか、見極めが重要である。私は個人旅行派だが、高岡は個人客にとってはルートがつくりやすいと思う。性別、年齢層などどうゆう人をターゲットにするのが重要である。また、ボランティアガイドの養成については、今後も観光協会と連携し、進めていきたい。

出席者

- ホスピタリティが重要である。駅員、タクシー運転手、通行人、観光客に対してど

リアクションするのか、市民運動的なものとして、だれに聞いても応えられるようなサインやシグナルなどがホスピタリティである。そういう観光サインづくりが必要ではないか。

出席者

- 観光ボランティアとしてご案内する場合、休館日を知らない人がおり、いろんな所で最新情報を伝えられるのは確かに大事である。特に、万葉歴史館の臨時休館日など、情報を共有できれば、と思う。

出席者

- 高岡の食のブランドはない、と考えている人が多い。でも、単にうまくPRされていないだけである。高岡にはおいしいものがたくさんあるはずである。何があって、どこで食せるかの情報提供が重要である。
- どの層に、どうゆう人にPRするのか見極める必要がある。東海北陸自動車道の全線開通以来、中京圏からの県外ナンバーの車がたくさん増えている。今後は、インバウンド対策が重要である。観光庁ができて以来、県内でも訪日外国人の姿を多く見かける。特に、韓国・中国・台湾客が多く、対策は無視できない状況である。観光戦略ネットでは、外国語看板づくりを実施してきている。また、これからもインターネット、web、パンフレットを作成するときの工夫などが必要である。また、高岡単独のインバウンドの施策を是非実施しておいてほしい。

出席者

- また、食べ物として、コロッケや高岡丼などの開発を進めることが必要であり、高岡の食材だけでは、足りないかもしれない。観光+食が大切である。日常生活の中に何かひかるものがあるかもしれない。たとえば、いつもの農家の飯を郷土食として自信持って自慢することもできる。宮崎のひや汁のようなものがあれば良い。また、旅行情報は市を中心に広める機会を作ってほしい。また、外国人観光客については、日頃からエージェント等と協力して受け入れ体制を整えておく必要がある。たとえば、ツアーのSOSができるように、宿泊した先で、電話で外国人観光客とやり取りできるシステム作りや、ガイド用のマニュアルをある程度作っておくと便利である。出来るものからとりくんでいく必要がある。

市長

- 行政の立場でいいものができるとうい。ピントがずれていたらだめである。ビジネスに結びつくようにしていく必要がある。また、広域的にこういった場つなぎが必要である。